

平成30年6月15日

保護者様

横浜市立山内小学校  
校長 基野 啓司  
児童いじめ防止委員会

## 第1回山内小児童いじめ防止委員会の報告

日頃より本校の教育活動に多大なるご支援ご協力をいただきありがとうございます。

5月30日（水）に、3年生以上のクラス代表、神奈川県警の方々、青葉区役所の方、北部学校教育事務所指導主事、地域の皆様、主任児童委員、PTA、教職員が本校体育館に集まり、「第1回山内小児童いじめ防止委員会」を行いました。いじめ防止委員会の取組は、今年で3年目になります。児童が主体となり、学校・家庭・地域が力を合わせていじめをなくし、安心安全な山内小学校を目指す、本校独自の取組です。第1回の話し合いについてご報告させていただきます。

【テーマ】 「あったかハート」でいじめ0（ゼロ）の山内小学校をつくろう

【参加者】 3年生以上クラス代表児童2名  
神奈川県警の方々 青葉区役所の方  
北部学校教育事務所指導主事 地域の皆様  
主任児童委員 PTA役員 教職員



【内容】 「どんな言動がいじめにつながるのか考えよう」

【報告】

今回は、いじめにつながる可能性のある具体的なキーワード（例、「きもい」、「そんなことも知らないの?」、他人の物を勝手に触る、つねる、等）から、いじめについて考えていきました。グループごとに普段生活している上で気になるキーワードを選び、体験したことや、その時の気持ちを出し合いました。併せて、選んだキーワードについての解決方法や、実際にそういった言動があった時の対処方法についても話し合いました。





くうちに、いじめについて深く考えたり、これからどうすればいいか協力して考えたりすることができました。(児童)

- 今日話合ったことを、いつもの生活に生かしていきたいと思います。(児童)

#### 【来賓の方々の感想】

- いじめは不幸しか生まないということを改めて認識する必要があります。是非、今日の話し合いをこの場で終わらせることなく、クラスに持ち帰り話し合いをして欲しいと思います。(神奈川県警の方)
- 今日の話合いは、大人である自分自身も改めて考えさせられる内容でした。いじめをしている側はふざげやいじりという気持ちであっても、されている側は感じ方が全く異なります。その違いを真剣に考える必要があります。加えて、されて嫌なことをはっきり断る練習も必要になってきます。しっかりとクラスで話し合いの場をもってほしいと思います。(神奈川県警の方)
- 普段、スポーツクラブのコーチとして小学生と関わりがあります。その中で、子ども同士のいじりやふざげがケンカに発展することがあり、いじめにつながるかと心配することがあります。試合中、相手チームから暴言を吐かれたり、少し強い口調で言ったりと、反省すべきことが周りにたくさんあることに改めて気付かされました。(地域の方)
- 「一人一人が命を失うことなく、命を大切に扱われる」これが、いじめを0(ゼロ)にすべき理由です。勇気をもって真剣に話してくれた今日の話合いの結果を、是非各クラスに持ち帰ってほしいと思います。(PTA)
- 子ども達は、言われた側ややられた側、言ってしまった側、やってしまった側、第三者として目撃した等、自分の体験を通して勇気をもっていろいろな面から発信していました。どうしたら、いじめを解決できるのか、一人一人が真剣に考えている姿は、とても素晴らしいと思いました。(PTA)
- 子どもの集団の中で、「嫌」とはっきり断るのは難しいだろうと思いました。同調圧力は高学年になるほど高まると思います。一人一人がやってはいけないことを止められる何かを持っていれば、暴走を止めることができるように思います。「はぁ?」「うざい!」「きもい!」を聞かない日はありません。世の中に溢れています。放っておけば、当たり前に使っています。折に触れ、トゲトゲ言葉だと気付く機会が必要だと思いました。(PTA)
- 大人も思わず使ってしまう言葉の中にも、多くの危険ワードがあり、日常生活で気を付けて使わないようにしていかないと、子どもも使っているのかと勘違いしてしまうのではないかと思います。(PTA)
- 今日のディスカッションの中で一番多く出てきた言葉は「周囲が気付いて注意できる環境をつくる」だったと思います。とても共感できました。一人一人が違う人間だから、誰が何を嫌だと感じるかはわかりません。「嫌だと発信すること」「周りの人が気付いて注意することのできる環境をつくるのが大切」なのだということが、子ども達の中から意見として出てくるのが、とても素晴らしいことだと思いました。(PTA)

